自体，稀有なものであるが，加えて骨格外に原発巣として著明な ^{99m}Tc pip 親和性を示すscintigram 像も又稀で且つ甚だ suggestive であると考える．

19. 興味ある経過をとった胃癌の骨転移の1症例

中井　俊夫　　藤井　恒二
日高　忠治　　松本　茂一
（日生病院・放）
大向　孝良　　野村　　正
（同・整外）
小畠　昭三　　林　　勝
（同・一般内科）
板野　龍光
（同・検査センター2部）
越智　宏暢
（阪市大病院・放）
石田　俊武
（同・整外）

患者は37歳男性で昭和49年9月頃から腰痛を訴え，しだいに強くなり50年1月に某医を訪れ，脊椎と胃のX線検査の結果著見はないとして精検のため当院に送られて来た．当時の血液検査は著見なく生化学的検査では，L.A.P.は正常であったが，アルカリと酸フォスファターゼがやや高く，のちこれら3者はしだいに増加して来ている．胸腰椎，骨盤および腎膀胱のX線検査やUCGでも著見なく，胸部は両中下肺野に若干の撒布像があった．^{99m}Tc-pyrophosphate による骨シンチで右肩関節，胸腰椎に集積を認め，^{99m}Tc-phytate による肝シンチでは肝の腫大のみであった．また ^{67}Ga-citrate による腹部シンチでは胸腰椎，仙腸関節に強い集積があり，骨転移が考えられたので右腸骨の生検を行ないそれを確認した．

しかし原発巣を発見できないまま3月15日死亡した．剖検により胃癌を発見し，骨，肝，肺などに転移していたものである．胃癌の骨転移とRI検査に関する山本，杉浦，浜本らの文献を参考にして，胃癌でX線陰性，骨シンチ陽性の骨転移はほぼ50%と考えた．藤原らは前立腺癌や子宮頸癌の場合も50%と報告しているので，骨シンチで骨転移と考えられる像を見た場合は胃癌をも考慮する必要のあることを，本症例は示唆しているように思われる．また本症例は骨シンチが陽性でありさらに ^{67}Ga によるシンチでも陽性であったにもかかわらず，X線所見が皆無であったと言う極めてRI検査が有用であった1症例である．

20. 腎シンチグラムにて診断し得た急性腎梗塞の3例

筆本　由幸　　広部　一彦
小林　　享　　若杉　茂俊
城　　忠文　　藤本　　淳
（大阪府立成人病センター・循環動態科）
中野　俊一
（同・アイソトープ科）

我々は最近不整脈が原因となり心腔内に出来た血栓が腎動脈に閉塞を起した3症例を経験した．悪心嘔吐を伴う腹痛や下背部痛の臨症症状や，軽微な血尿や蛋白尿，LDHの上昇などの検査成績で腎硬塞を疑われ，各れの症例も ^{99m}Tc-DMSA による腎シンチグラムを撮影した．多方向よりの腎シンチグラム上に本症に特有な楔状のcold areaを見い出し診断を確定し得た．一例は急性腹症として開腹術が考慮されたがnon invasiveな腎シンチグラムで診断が決定し，保存療法により救命し得た．

3症例共症状の寛解時に撰択的腎動脈造影を行い，シンチグラムのcold areaに一致する腎内動脈の閉塞とネフログラムの異常所見を認めている．この事実より本症の診断は，臨床症状，検査成績，腎シンチスキャン検査にて確定し得ると考えている．

さらに腎硬塞の原因となった不整脈や心疾患についても検討を加えた．

Presented by Medical*Online